



# 営農NEWS



## ナシにおける樹幹せん孔性害虫ヒメボクトウの効率的な防除法について

県内のナシ産地において、樹幹せん孔性害虫ヒメボクトウによる被害が発生していますが、この新しい害虫に対する効率的な防除法の開発が要望されていました。

この度、農業総合センター園芸研究所より薬剤による防除法が提案されましたので、ヒメボクトウの生態と防除対策について紹介します。

### 1 ヒメボクトウの発生生態

ヒメボクトウはチョウ目の害虫で、ボクトウガ科に属するガです。成虫は羽を広げると 4~6 cm あり、全身が灰色で鱗粉に覆われています。成虫は 6 月中下旬頃から 8 月下旬頃まで発生し、7 月にピークとなります。成虫の寿命は雄で 5~9 日、雌で 6~7 日と短いですが、その間に樹皮の割れ目や枝の裂傷部に卵塊で産卵します。ふ化した幼虫は赤紫色~赤褐色の芋虫で、20~30 頭の集団で樹体内部にせん孔して生息します。この集団せん孔は老熟幼虫まで続き、蛹になるまで 2~3 年程度の期間を要すると考えられています。樹体内部で蛹になり、食入した穴の入り口まで移動して羽化しますので、その抜け殻は半身を乗り出した格好で残されます。

### 2 被害状況

ヒメボクトウはせん孔性害虫では珍しく、集団で生息します。食入被害を受けた樹は、樹体内部が空洞化してしまうため、被害が激しくなると樹勢の低下や枯死する場合があります。加害部位からは幼虫の糞や木くずが排出され、また、内部が食害されるために樹液がしみ出し、独特の悪臭を生じます。

### 3 防除対策

#### 1) 耕種的や物理的な対策

- (1) 被害のある枝はのこぎり等で切除し、そのまま放置せず、粉碎するか焼却するなど適切に処分します。
- (2) 樹皮の隙間に産卵するため、冬季に粗皮削りを行いましょう。
- (3) ヒメボクトウはヤナギやポプラにも寄生しますので、果樹園近くに植えられている場合には、成虫の飛来・侵入について特に注意しましょう。

#### 2) 薬剤による防除（園芸研究所の成果情報より）

- (1) 樹体内に食入しているヒメボクトウ幼虫に対して、6 月上旬と 9 月中旬に天敵線虫殺虫剤（有効成分：スタイナーネマ・カーポカプサエ、商品名：バイオセーフ）を虫糞や木くずの排出孔を中心に、蓄圧式噴霧器を用いて内部の幼虫まで薬液が届くように滴るまで集中的に注入します。なお、注入するにあたっては、虫糞や木くずは出来るだけ除去し、また、食害の進んだ内部の食入孔は複雑に入り組んでいるため、散布量の目安として被害枝あたり 200~800ml 程度とし、十分量を丁寧にすることが大切です。天敵線虫はヒメボクトウに寄生し、虫体内で増殖して幼虫を死亡させます。
- (2) ふ化した幼虫の樹体内への新たな食入を抑制するために、7 月中旬~8 月上旬の間にフェニックスフロアブルを樹幹が十分濡れるように 10 アール当たり 200L 以上の薬液を散布します。散布は、動力噴霧器（鉄砲噴口）を用いると効果的です。スピードスプレーヤ（SS）での散布では、薬液の付着むらが生じる可能性があるため、薬液が樹幹にも十分量付着するように丁寧に散布することが必要です。
- (3) 上記の（1）天敵線虫殺虫剤の樹体内注入と（2）フェニックスフロアブルの樹幹散布を体系防除することにより、より一層、ヒメボクトウの被害を軽減することができます。なお、ヒメボクトウの幼虫期間が複数年と長いことから、被害を軽減させるためには防除を数年間継続して実施する必要があります。

表 1 ナシおよびリンゴのヒメボクトウ防除薬剤（平成 26 年 5 月 26 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	備考
フェニックスフロアブル	4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	
バイオセーフ	2500 万頭（約 10 g） / 250	幼虫発生期 / —	木くず排出孔を中心にして薬液が滴るまで樹幹注入する

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040